

万行寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460

2024(令和6)年

仏暦2567年

3月号

(第150号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホツがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



法住話職

「仏に護られている」とは

正信心仏偈に学ぶ
攝取心光常照護
已能雖破無明闇
攝取の心光、つねに照護し
たまふ。すでによく無明の
闇を破すといへども、

「現代語訳」
阿彌陀仏の光明はいつも
衆生を攝取取ってお護り
くださる。すでに無明の闇
ははれても、

信心を得て恵まれる「ご利益」が続きます。
その三番目が「心光攝護の益」で、阿彌陀仏の光明に常に攝取取られて護られるという「ご利益」です。
光明といわれる仏さまの光には、「色光」と「心光」という二種あるといわれます。
「色光」とは、仏の身体から、信心のない人を信心を得られるように発する光とされます。
そして、「心光」とは、仏

の心から、信心を得た人だけを照らし攝取取って護ってくださる光とされます。
そこで、「仏に護られている」という表現があります。が、日々手を合わせ、私たちが願うことをきいてくれて幸せに暮らせていることが、「仏に護られている」と感じる方が多いでしょう。しかし、親鸞さまは、『一念多念文意』という著に、
護るといのは、他の教えや他の見解にしたがう人たちによって信心破られることがなく、自力の心で念仏する人たちによって信心をさまたげられることがなく、魔王にも襲われることがなく、邪悪な鬼や神もその人を悩ますことがないということである。

と示されます。「信心」とは、阿彌陀仏の救いを疑うことなく喜ぶ心です。その信心を得たなら、他の教えにも破られることなく、自力という願い事をこめて念仏する人たちからもさまたげられることなく護られているということなのです。つまり、仏はこの私を護ってくださるのではなく、先ず「信心」を護ってくださるといふことでしょう。続いて「無明」という言葉が出てきます。同じく『一念多念文意』に、
わたしどもの身には無明煩惱が満ちみちており、欲望も多く、怒りや腹立ち、ねみやねたみの心ばかりが絶え間なく起こり、まさに命が終ろうとするそのときまで、止まることもなく、消えることもなく絶えることもない。
と示されます。信心を得られたからといって、私たちに「無明」という根源的な無知、そして煩惱に満ちあふれています。欲望、怒り、腹立ち、ねねみ、ねたみの心が絶え間なく起こってしまうのです。
そこで、「無明の闇ははれても」と続くように、ここからは、後の四番目の「横超五趣の益」という「ご利益」に関わる「無明煩惱」の中身について示されます。

浄土真宗 新 仏事のイロハ

四、法要・行事

― 仏縁を深めよう ―

「聞法の勧め」

お寺の法座は文化講座ではない

年忌法要は自宅で行われることが多いのですが、最近では、自宅以外の会館やホテルでも行われるようになってきました。もし、自宅以外でとお考えなら、ぜひお寺で営んでいただきたいと思います。早めに住職に相談されることです。

また、お寺では、多少の差異はあるにせよ、年間を通して、さまざまな法要、法座が催されています。それらの法会（仏法の集い）に積極的に参加されることをお勧めします。お寺でお勧めされる代表的な法要については、後の項で述べますので、こちらをご覧ください。

お寺で行われる法要・法座

で、心得ていただきたいことがあります。それは、「お寺の法要・法座は、いわゆる文化講座ではない」という点です。

どういうことかと言いますと、公共の施設やマスコミの主権などで行われる文化講座は、主に知識、教養を身につけるものですが、お寺の法座は、自分を飾り立てていた自分の煩惱に気づき、煩惱によって覆い隠されていた大事なものが何であるかを聞いて明らかにしていく機縁となるものです。

浄土真宗で言えば、その大事なもの阿彌陀仏のご本願であり、そのはたらきである

お念仏です。お念仏に込められた阿彌陀さまのお心を聞いていく講座がお寺の法座であり、法話なのです。これを聞法と言います。

「学仏大悲心」という法語があります。七高僧の第五祖、中国の善導大師というお方が著された『観経疏』という書物の中に出てくる言葉ですが、意味は「仏さま（阿彌陀さま）の大きいなる慈悲のお心（私たち一人ひとりを漏らさず必ずすくい取る）と誓われ成就された悲願のはたらき）の真意を学ぶ（信じて受け取る）」ことです。

すなわち、お寺の法座は余計な飾りを削いで、人生で一番大事なことだけを選びすぐり受け取り、心をスリムにしていくものです。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より



年忌法要表

1周忌	2023(令和 5)年	23回忌	2002(平成14)年
3回忌	2022(令和 4)年	25回忌	2000(平成12)年
7回忌	2018(平成30)年	27回忌	1998(平成10)年
13回忌	2012(平成24)年	33回忌	1992(平成 4)年
17回忌	2008(平成20)年	50回忌	1975(昭和50)年

編集後記

ノートパソコンの買い替えをしました。まだ使えますが、来年、ウインドウズ10のサポート終了があるからです。大きな出費ですが、寺報編集の必需品、仕方ありません。以前と比べると、処理能力は驚くほど良くなり快適です。まだ使い慣れない中での編集でしたが、無事に発行できました。